

12. 05. 25

森とせせらぎネットワークが行った「せせらぎ放射線測定会」の結果を受けて、数値が高かった若干箇所について、改めて市の担当に測定をし直していただき必要な措置をとっていただきました。

その後、広報担当から市担当へ「放射線安全基準（目安）についての根拠」その他について質問をしまいましたが、この度その回答が出ましたのでここにQ & A形式で掲載させていただきます。

尚、当該掲載に関しましては市担当からの承諾を得ております。

**Q** 年間1000→「1日の限度→毎時→0. 19」( $\mu$ sv)

「 」内の部分を分かりやすく示していただけると助かりますが。

**A** 先日の開示請求に係る提供資料の内容に沿って、市ホームページに市公共施設における放射線量目安値（0.19 マイクロシーベルト/h）の算定の考え方をわかりやすく記載したいと考えております。5月末になる予定ですので市HPをご確認ください。

なお、学校、保育園等の放射線量測定結果については、携帯電話でも「モバイル川崎」を通じて閲覧できるようにしているため、測定結果一覧に野線は設けずテキスト形式で表示しておりますので、御理解いただきたく存じます。

**Q** どんな測定方法なのですか？

**A** 平成23年6月に実施した学校、保育園等の放射線量測定の時点では、国による測定マニュアルがなかったことから、測定時間等については、使用したサーベイメータTCS-171取扱説明書に従って設定しました。（時定数：30秒、測定時間：測定開始から1分30秒後、2分後、2分30秒後、3分後、3分30秒後の計5回の測定データの平均値を測定結果として示しました。）

また、測定する際の地表面からの高さについては、「福島県内の学校の校舎・校庭等の利用判断における暫定的考え方（平成23年4月19日、文部科学省）」において、「・・・保育所、幼稚園、小学校については50cm高さ、中学校については1m高さの数値」との表記があったことと、空間放射線量率は地表面からの影響が大きく、多くの市民の方が土壌からの放射線による健康影響に不安を抱いていたことを考慮して、地表から高さ5cm、50cm及び100cmで測定を行いました。

**Q** 放射線安全基準（目安）はどのようにして決定されたのでしょうか？

**A** 平成 23 年 6 月に実施した学校、保育園等の放射線量測定の際には、国において 1 時間当たりの空間放射線量の基準等が設定されていませんでした。このため、本市の当該測定に関わる部局（総務局、環境局、教育委員会、こども本部、建設緑政局）では、市公共施設における空間放射線量の目安について、「福島県内の学校の校舎・校庭等の利用判断における暫定的考え方（平成 23 年 4 月 19 日、文部科学省）」を踏まえて検討し、0.19 マイクロシーベルト/h を関係部局で庁内合意のうえ、市長・副市長に提案し、了承を得ました。

このような経過を経て、当該測定結果速報に関する報道発表資料（6 月 14 日付け）の中で市公共施設等の放射線量の目安として公表し、現在に至っております。

**Q** これまでの測定結果から分かる高濃度箇所の特徴などを教えてください。  
（公的な場所しか測定されておられないので）

**A** 局所的に放射線量が高いと予測される箇所としては、一般に雨水排水が集まる場所、風雨等により泥・土等がたまりやすい場所、植物が生えている場所、放射性物質が付着しやすい構造物等とされています。（放射性物質による局所的汚染箇所への対処ガイドライン（平成 24 年 3 月、環境省））

本市においても、学校、保育園等の測定では、一部の測定対象施設の雨どいなど 18 箇所において 0.19 マイクロシーベルト/h を超えていました。なお、これらの場所については、当該地点の土壌等の除去保管などの対策を講じた結果、0.19 マイクロシーベルト/h 以下に低減しております。

**Q** 測定や除染に掛かる費用はどことが負担しているのですか？

**A** 放射線の測定や焼却灰等の保管等に要する費用は、一義的にはすべて市費で対応していますが、これらの費用については、東京電力に対して賠償請求を予定しております。

平成 24 年 5 月 22 日

川崎市環境局放射線安全推進室  
電話 044(200)3495